

第36回 渡部麻美さん（東洋英和女学院大学）

日本心理学会若手の会コラムリレーでは、若手のみなさまに、ご活躍されている領域や普段の生活についてご紹介いただきます。

第36回目は、渡部麻美さん（東洋英和女学院大学）にご執筆いただきました。

駆け引きを探る勘どころ

他者に配慮しながら適切な形で自己表現を行うスキルであるアサーションを研究テーマに、主に調査研究に携わっています。自分が学生だった頃、若者たちの中には「友人に嫌われないようにすること」や「周りの雰囲気を変えないこと」を重視する空気がありました（現在もあるかもしれません）。その中で適応するためには、自己表現よりも他者配慮を優先すべきなのではないかと漠然と予測していました。ところが研究を続ける中で、自己表現も他者配慮も友人関係の問題や精神的不健康と曲線的な関係があることが見えてきました。つまり、どちらも適度に行うことが大事であるということです。

調査の面白さを感じるのは、ふだんの生活の中でなんとなく感じていることが、分析結果として浮かび上がってくる瞬間です。しかし、時として、こちらの予想を超える結果が導き出されることもあります。それもまた調査研究の醍醐味ではないかと思います。目の前のデータがもたらしてくれる豊かな情報を、自分はどれだけ汲み取れているのか。いつも自問自答しています。

渡部麻美（Asami WATANABE）さん

【ご所属】 東洋英和女学院大学

【ご連絡先】 wasami@toyoeiwa.ac.jp

【その他】 アサーションは臨床心理学、教育心理学、社会心理学…と様々な領域にまたがるテーマです。私自身は社会心理学の研究者を自認していますが、他領域のみなさまとも議論させていただきたいと思っています。学会等でお目にかかった際には是非お声掛けください。